京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

京城居留民團公文

京城居留民團告示第十號
明治四十二年度當民團特別會計漢城病院歳入出豫算左ノ通更正ノ件居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ
明治四十二年六月十一日
京城居留民團民長　熊谷頼太郎

明治四十二年度京城居留民團特別會計漢城病院歳入出更正豫算表

歳　入
經常部
第一款漢城病院收入
既定豫算額金五萬〇九百十六圓
更正豫算額金八千七百三十九圓
第一項藥價及材料收入
既定豫算額金二萬六千〇六十一圓
更正豫算額金千八百二十一圓
第二項診察及手數料
既定豫算額金四千六百五十五圓
更正豫算額金二百九十五圓
第三項入院及賄料收入
既定豫算額金一萬九千五百二十八圓
更正豫算額金八百十三圓
第四項雜收入
既定豫算額金六百七十二圓
更正豫算額金三百圓
第五項漢城病院收入
既定豫算額ナシ
更正豫算額金五千五百圓
小計
既定豫算額金五万九千八百八十圓
更正豫算額金一万七千七百〇三圓
臨時部
第一款補給額
既定豫算額金二千圓
更正豫算額金四千七百五十圓
小計
既定豫算額金二千圓
更正豫算額金四千七百五十圓
合計
既定豫算額金六萬一千八百八十圓
更正豫算額金二萬二千四百五十三圓

歳　出
經常部
第一款漢城病院費
既定豫算額金四万八千五百五十八圓
更正豫算額金一萬〇六百二十五圓
第一項俸給
既定豫算額金二万二百四圓
更正豫算額金二千七百五十五圓
第二項雜給
既定豫算額金六千三百圓
更正豫算額金六十百五十六圓
第三項需用費
既定豫算額金一萬九千〇七十二圓
更正豫算額金一千三百七十八圓
第四項修繕費
既定豫算額金六百四十六圓
更正豫算額ナシ
第五款雜支出
既定豫算額金百圓
更正豫算額金十圓
第六款豫備費
既定豫算額金一千七百〇四圓
更正豫算額金三百圓
合計
既定豫算額金六萬一千八百八十圓
更正豫算額金二萬二千四百五十三圓

文苑

◎凜たる精神　片々生

僕の懇意なるヨボ奇問を發して曰く、日本人は吾儕韓人よりも豪いと云ふか一体何處が豪いか、成程國としては日本は韓國よりもズツト富强である、然れども個人として何處が韓人に優るか、人は云ふ日本人が經濟思想が發達して居ると、夫れなら支那人は日本人よりも經濟思想が發達して居るそれで支那は國として日本に劣る、ドウモ此點が解らぬ、ドウ考へても矛盾して居るやふだ、然り表面觀察ではヨボの言ふ通り矛盾して居る「目に見へぬ凜たる精神」是が優て居る、是はヨボには解るまいと叱すヨボ奴ギャフンとする

◎觀劇趣味の墮落　夏雲生

近頃京城には觀劇上に於て妙な傾向がある、夫れは安くすれば客があるが、少し高いと客がない、所謂劇の巧拙は問ふ所に非ずと云ふ樣な傾向がある、是は喜ぶべきことであるや否は知らぬ、一面より觀察すれば不景氣だからとも見へる、亦一面に於ては觀劇趣味の墮落とも見へる、要するに劇の巧拙が能く判らぬより來る結果ではあるまいか、若し團十菊五を地下より起し來るとも高くては五日以上の大入は六ッ箇敷からふと思ふ。

◎百人一首讀替（十二）　まゝこ女史投

●三條院●
ながらへて幸なき浮世いまぞ去る
今宵の月ぞなごりなりけり

●能因法師●
かせに散る紅葉をながす谷川の
錦をあさるさとの乙女子

●良暹法師●
たへやらぬ淋しきまゝに出たては
秋れとづるゝ雁のこゑのみ

●大納言經信●
みのりして稲田安きは風そねね
明日かういるゝあしの庵へ

●祐子内親王家紀伊●
仇ひと〳〵しらで契りし悲しさは
しのぶ恨みの絶るまもなし

●權中納言匡房●
咲そめぬ山ふところのさくら花
とざきは見へぬ春霞かな

佐倉宗吾

（百五）　眞龍齋貞水講演

此松平伊豆守は、智慧伊豆と申し上げた御方でございまして、此御人を大老が此度御取調役に御撰みになりましたのは、深き仔細のある事でございます、伊豆守は二代將軍から四代將軍に跨つて仕へた人で、幼名を松平長次郎と謂はれ、後ち松平右衛門大夫樣御養子となり、そこで松平伊豆守信綱となりました、此御人は、初めて御歳二十六歳で御老中に御進みになりましたが、何うも御評判か好い、博學にして才智があり、ましたが、所が如何な偉い人でも、何うも若盛りの時は、随分御慢心と云ふ事はなきにしもあらず、そこで此松平伊豆守も、少し天狗で居らつしやる、すると大久保彦左衛門が、當時飛ぶ鳥おとす御老中の勢ひある伊豆守ではあるが、何うも些と御慢心でおる、天狗の鼻を打ち折る者がないと、何處まで鼻が伸びて了うかも知れぬ、伸びて支へて了つた日には、納まりが着かぬ、斯りや御異見をしなければ成らぬと思召し、始終狙けて居らつしやると、恰度一日の事殿中に於て、松平と不圖御廊下で出會つた　伊「オゝ、是は彦左衛門　彦「是は〳〵松平老中、もう何日ながら御機嫌宜う　伊「ム、其方も何日もながら健かちやな　彦「ハイ、憎まれ者は世に憚ると申しましてな」いやな親爺だ、直きに人に何か云ふと癪を云ふ　彦「貴下は何日も御健全と申し上げたいが併し御顔の色が勝れぬ容子、御心持惡しく御居でござるか　伊「イヤ近頃聊か病氣の所へ、眼病にて甚だ難澁に及ぶ　彦「イヤそれは〳〵氣の毒、エー貴方は御醫者は誰樣で　伊「半井通仙院蘆庵でござる　彦「ハア通仙院……天下の名醫でござるが、乍併ら貴下の御病氣は蘆庵の配劑では御癒りになるまい　伊「ホ、ホ――、彦「うれは醫者の薬を召し上るより、生膽を召し上れ　伊「何と申す　彦「生膽を召し上れ、生膽を召し上るゝと、直きに御健全の身と相成ります、　伊「ホ、ホー、何の生膽　彦「英雄の生膽が宜しうござる　伊「ホ、ホー、然らば仁丹でござるか　彦「左樣でござる　伊「薩摩の國にては、仁丹を用ゐると云ふ事を、承り居るが、予は未だ仁丹の味も知らざる者なり、併しそれは結構でも、あらうが、得難きものちやな　彦「御意にござる、併から此彦左が腹を切り、生膽を進上いたしますれば、うれを御配劑なされて召上れ、御健全の身と成つて、天下國家のため　御忠勤を願ひたい　又この親爺、人を馬鹿にする　伊「ホー、然らば彦左、予に確かに膽をくれるか　彦「イヤ、うれは確かに進上いたす、最早年齢を老い、何の御役も勤らず、故に敏腹を切つて、生膽を差上げますれば、宜しく御用ゐ下し置かれたく　伊「千萬辱けない、然らば今日下城を致すと、臣下を以て申し受けるぞ　彦「ハア宜しうござる　伊「其時に兎や斯う申すまいな　彦「武士に二言はござらぬ　伊「然らば確かに申受ける　彦「宜しうござる、併し御容物は御持參を願ひたい　伊「何う云ふ容物が宜しいかな　彦「英雄の生膽を容れるのであるから、銀の壺ぐらゐを御持ちを願ひたい、些と大振が宜しい、斯く申すと大言のやうではござるが、千軍万馬の中を往來いたし、東照大神宮に、御供を缺いたる事なく、又泰平となり、御政治の御傍にあつて、此御政治を聴き置き彦左、治亂兩樣に錬たる膽なれば、隨分大きくござるから、其御心算で御容物を御持參願ひたい　伊「イヤ承知いたした、伊豆守腹の中で、人は彦左の爲め取つて押へられるが、此方だけは、彦左を取つて押へ、此親爺の鼻を枉げてやらう、斯う云ふ御考へで、是から御下城になるさ、梅村三左衛門を召されましたから、梅村三左衛門が　三「ハ、ハアーッ　伊「今日殿中にて彦左へ出合ひ彦左より生膽を貰受くる約束を致したから、其方是から、駿河臺彦左の屋敷へ參り、生膽を申し受けて參れ

寄書

韓國中央銀行論（九）

ケー、シー生

第一銀行より紙幣發行權を引上ぐる場合に於ける報償條件如何（四）の中六號第一銀行が紙幣發行に伴ひ實行若くは計畫せる設備の整理方法

第一銀行が紙幣發行の公認を得て中央銀行たるの義務を負擔したる結果已に實行し、若くは將來に實行すべき計畫を以て諸般の設備を爲したるは一般の認識する所なり其重もなるものを摘示すれば

一、事務員の增數
二、支店出張所の增設
三、營業用地建物の增加

等なり而して此等諸種の設備中特權の解除と同時に不用に屬すべきもの亦實に少なからざるべし

先づ事務員に就て考ふるに目今京城總支店に於ける國庫、發行、調査三部の總員百五十人餘の中約其三分の二は特權解除と共に不用と爲り解雇の止むなきを見るべく其他の支店出張員にありても少くも二三名宛の解雇を見るべし

次に支店出張所に就ては各店孰れも其規模を縮少するを要し又全然閉鎖して可なるものもあるべし現在の支店出張所は十四箇所なるが余輩の見るところに依れば其內

一、全然存置の要なきものは　鏡城
咸興の二出張所
二、大に規模の縮少を要するものは　京城、平壤、元山、仁川の四支店

ならん就中京城支店は業務の大半を失ふべきが故に事務の大減少と共に其規模を現在の半分に縮少して可なるべし營業用地所建物の膨脹に至りては近年實に驚くべきものあり韓國各支店出張所總体を合算せば其價格八十萬圓に上るべし此は紙幣發行の公認に伴ひ業務の膨脹に連れて盛んに營業所の改造社宅の新築を行ひたる結果にして一朝紙幣發行の特權を失ひて普通銀行の地位に立戻る場合には夫々縮少削減を斷行して其整理を遂げざるべからず殊に目下京城南大門通りに百萬圓の豫算を以て築造中なる新營業所の如きは全く無用の物と化し去るべし第一銀行の境遇も此に至つて氣の毒の感なくんばあらず

如上各般設備の整理方法に關しては第一銀行當局に於て自ら成算之あるべきも適當の程度に於て之を新設の中央銀行に引受けしめ以て整理を了するが相互の便益ならんか

倫敦電報（東京經由）

▲宮殿下招待會　十一日加藤駐英大使は英本宮殿下の招待會を開き總理大臣以下多數參列せらる

東京電報

▲答禮大使出迎　清國答禮大使出迎の爲め淀、淺間の二軍艦神戶に向ひたり

▲貯金の現在高　郵便貯金五月末の現在は一億一千万圓にして前月に比し四百万圓增加せり（以上十二日發）

外報一束

●露國の排英論　今日迄波斯に關する英露協約の强き味方たりしノウオエウレミヤは露國外交社會は外相イズウオルスキーが英國に籠絡せられつゝあるを非難し今や露國も獨逸と同樣に面倒にして且危險なる拘束を排斥すべき時期至れりと唱ふる排英派より出でたる論文を揭載せりと

●佛國製艦可決　十年間に新艦建造費三十億法を支出せんとする佛國海軍法案は可決せられたり

●英國海軍演習　不日擧行せらるべき英國海軍大演習は七万噸の石炭を搭載すべき四十隻の石炭運送船を要し其演習區域は英國海峽より北海に至る間なりと

雜報

●曾禰子の方針　韓國に於ける統監政治に於て比較的實行の遲々たるは地方行政なり具体的に云へば京釜、京義鐵道沿道の主要地には多少實行せざるにあらざるも深く內地に入る時は地方行政なるもの未だ端緒に着かず郡守專制と云ふ現狀なるを以て曾禰子統監に陞任せば此の方面に行政の實行を期せん方針なり但之を實行する爲には現行の制度に改廢を加ふる結果を生ずべしと大阪朝日は報ぜり

●道書記官と附加稅　地方開發の爲新事業を企圖すべき事少なからず各道は夙に經費の不足を感じつゝあり此際結稅其他の國稅と共に附加稅を徵收して地方事業費に充てんと欲し各道書記官は異口同音に賛同してこれが承認を要めんと期し居れるも國稅の徵收さへ道によりて民力に伴はざれば附加稅の徵收は如何ならんかと懸念せし度支部に於ては容易にこれを許容せざるが道書記官は地方の啓發上是非共必要なればとて極力これが成効を期し居れば度支部に於ても各方面の會議を終る迄に篤と熟議する處あるべしと

●日韓徵稅費比較　我日本に於ける徵稅費は收稅額に對し約百分の二半位なるが韓國に於ける徵稅費は殆んど我三倍に相當し百圓の徵稅を爲すに八圓弱を要し居る由

●事務成蹟の調査　本年上半期に於ける韓全道の行政事務成蹟は目下內部に於て調製中なりと

▲米國の投資　米國は今に清國に向て投資せんことを希望し居れりと（以上十二日發）

●農林講習所授業開始　平壤農林講習所は十日午前十時より授業開始式を擧行せし

●東拓株券交付數　東拓株券の交付を開始したる以來十一日迄の交付數は十七萬三千株に達したりと

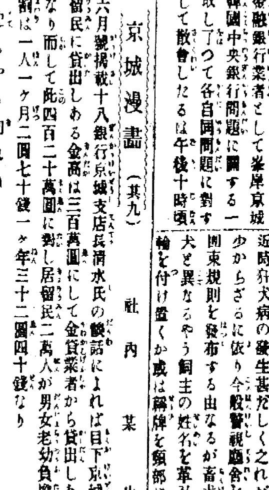
●漁業出願の增加　免許漁業の出願件數著しく增加し十一日現在にて千百六十四件の多數に達したりと

●京城銀行集會所　中央銀行問題　京城銀行集會所は一昨十一日午后六時より其例會を京城ホテルに開催す出席者は日韓銀行業者三十余名にして始めに晩餐を共にし後當夜の議題たる手形交換所設置の件に關し討議を盡し正式の會合を了りたり夫より一同は單に金融銀行業者として峯岸京城新報社長より韓國中央銀行問題に關する一場の談話を聽取し了つて各自同問題に對する意見を交換して散會したるは午後十時頃なりし

京城漫畫（其九）　社內　某生

雜誌「朝鮮」六月號揭載十八銀行京城支店長淸水氏の談話によれば目下京城の三銀行で京城居留民に貸出しある金高は三百萬圓にして金貸業者から貸出しある金高は百廿萬圓なり而して此四百二十萬圓に對し居留民二萬人が男女老幼負擔する利子の平均頭割は一人一ヶ月二圓七十錢一ヶ年三十二圓四十錢なり

嗚呼迚もやり切れぬ



●李容九の歡迎會　一進會にては十二日北署三淸洞成恩亭に於て李容九氏の歡迎會を開く由

●暴徒巨魁の逮捕　十日夜光州警察署に於て暴徒の首魁金玄黒及其部下五名を逮捕したりといふ

●農銀の營業成績　韓國各農工銀行今季の營業成績は前年同期に比し甚だしく不良にて今月末の決算には前半季に比し其純益は三割位減少し居るべしと

●各大臣の警衛費　韓國の各大臣は警衛の巡査を引連れ居ること何人も知る如くなるが之に對して總理以下各大臣の警衛費は一個年九萬六千圓にして何れも豫備金より支出するものなりと

●郡守の缺員と任命　郡守の缺員は目下全道を通じ約二十名あるを以て內部は各觀察使より推薦に係る地方官候補者より資格審査會に於て適任と認めた

が李觀察使、花井技師、申之澤道主事等の來會ありて頗る盛會なりき李觀察使は起て一場の訓諭演說をなし終て花井技師は授業方針及び生徒心得等に就き講話あり次に今回新に着任せし安永專任講師の挨拶あり十一

る者を不日任命すべしと

●地方辯護士の登錄　京城の辯護士は過般來それ〳〵登錄濟となりたるが地方より登錄せるもの左の如し

鎭南浦有本源次郎、元山港柴田良之助、大邱下山清一郎、同林清作、釜山秀島浩

●軍司令官と道書記官　大久保軍司令官は目下入京中の各道書記官一同を招待し地方の狀況及軍隊の行動等に就き意見を聽取すべき由は既報の如くなるが愈々十四日龍山なる軍司令部に一同を招待すべしと

●狂犬病と畜犬規則　近時狂犬病の發生甚だしく之れが被害も亦少からざるに依り今般警視廳令を以て畜犬取締規則を發布する由なるが畜犬は一見野犬と異なるやう飼主の姓名を革又は金の頸輪を付け置くか或は鑑牌を頸部に繫附すと

●廣梁灣の鹽田工事　廣梁灣の鹽田工事に就ては屢々報道せし如くなるが愈々先月二十九日より着手し支那苦力五百名を以て目下盛んに工事中の由にて本年度の豫算は二十三萬圓を支出する筈なりと因みに記す朱安に於ける鹽田工事は本月中に全部竣成すべしといふ

●駐韓軍論功行賞　既報の如く韓國暴徒討伐に從事したる討伐軍の論功行賞は愈々近日中に發表せらるゝ由なるが今回發表の分は一昨夏政變以來昨年十月迄の期間に於ける行賞にして將官は八百圓より千五百圓迄大佐以下將卒は八百圓以下三十圓以上の標準にて金鵄勳章を受くべき將卒は約十七八人ある由

●道書記官會議（農商工部所管）　道書記官會議は前日に引續き十二日も農商工部大臣室に開會せしが菊池次官代理各局長課長列席の上道家山林局技師、庵原漁政

時閉會せりと

●平壤電燈會社設立　平壤に於ける電燈會社設立の計畫中なりし松尾重信、板倉益太郎、松尾六郎等の他數氏の主唱にて愈々近日中に其の發起人會を開くに決し小城鑛道所長其他官廳の重なる人々も之に聲援を與ふる由なるが平壤に電燈事業の起るを見るも遠からざる事なるべし而して其の電燈事業の動力としては石炭の火力を應用し會社は資本金十四五万圓の株式組織とすべしと

●露國東洋學生渡日　露國東洋學生ヘフチヤ、ホスデエス、サデプへの三名は過般入京九州旅館に投宿中なりしがへ、ホの兩名は十日馬山を經て長崎に向ひサデプハ氏は目下同國總領事館に滯在し居れりと

●巨智部博士の叙勲　前農商工部技監勅任二等巨智部忠承氏は九日付を以て特に大極章を賜はりた。

●仁川英國領事入京　仁川駐箚英國領事エレンケント氏は十日入京同國領事館に投宿

●崇宗會の設立計畫　李容植は儒敎振興の目的にて崇宗會と稱するものを設立せんとて目下之れが企畫中なりと

●載寧鐵産額　官營載寧鐵山昨年度の產出額は前載寧にて三万三千八百七十噸價格十一萬六千七百六十三圓、殷栗及長連は一萬七千三百三十五噸價額十一萬七千八百七十八圓なりし由なるが今年度は枝光製鐵所と六萬噸の買込契約を爲したる由因に現今日本の每年鐵需用額は二十三万噸にして內十万噸は清國大冶鐵山より買入れ次は前記の個所より六萬噸及び韓國安岳產の三萬噸を買入れ他は日本產なりと

●敍勲　六月八日附を以て韓皇室より左の武官に對し敍勲の沙汰ありたり

特敍大勲賜李花大綬章　第一艦隊司令長官　海軍中將男爵勳一等　伊集院五郎
同　第二艦隊司令長官　海軍中將男爵勳一等　出羽重遠
特敍勳一等賜大極章　第一艦隊司令官海軍中將　山田彥八
特敍勳一等賜八卦章　陸軍少將　香川宮太郎
陸軍少將　恒吉忠道
香取艦長海軍大佐勳三等　大城源三郎
特賜大極章　陸軍步兵大佐　菊池主殿
陸軍步兵大佐　生田目新
第六師團參謀長陸軍步兵大佐　佐藤[illegible]
筑波艦長海軍大佐　廣瀨勝比古
敷島艦長海軍大佐　黑井悌二郎
生駒艦長海軍大佐　江口麟六
日進艦長海軍大佐　山田猶之助
春日艦長海軍大佐　竹下勇
第二艦隊參謀長海軍大佐　松村龍雄
吾妻艦長海軍大佐　久保田彥七
秋津洲艦長海軍中佐　中野直枝
八重山艦長海軍中佐　堀內三郎
第十一驅逐隊司令海軍中佐　下村亮太郎
特敍勳二等賜八卦章　陸軍憲兵副官憲兵中佐　山形閑
第十四十五艇隊司令海軍中佐　有馬純位
特敍勳三等賜大極章　陸軍憲兵少佐　藥師川常義
同　本園春明
第十二艇隊司令海軍少佐　庄野義雄
特敍勳三等賜八卦章　陸軍憲兵大尉　神田長平
同　小澤壽
同　步兵大尉　岡村末吉
同　西原矩意
軍司令官副官步兵大尉　十時惟孝
特敍勳四等賜八卦章　陸軍步兵中尉　二見源次郎
特敍勳五等賜大極章　同　河南直

●韓國鑛業現況　韓國鑛業法實施以來客月末日迄に許可したる鑛業權及砂鑛採取權は合計四百二十九件にして其內譯は左の如し

金鑛六七、銀鑛八、銅鑛三二、鉛鑛二、銅鑛四、金銀銅一〇、水銀鑛二、亞鉛鑛二、金銀銅鉛鑛一、鐵鑛三九、銅亞鉛二、黑鉛六、石炭二七、石油五、金銀鉛三、銅鐵亞鉛一、金銀亞鉛五、金銀鑛二五、金銀銅鉛一、金銀銅鑛一、金銅鉛一、金銅鑛五、銀銅鉛、九銀銅鑛六、銀銅亞鉛鑛一、銀鉛鑛三、鐵滿俺一、銅鉛鑛二、砂金一〇九、金銀銅亞鉛鑛一、各種礦物五、砂鐵一

因に此が道別を記すれば京畿三十二、忠淸六十九、全羅十二、慶尙百十一、江原二十黃海二十六、平安百二十三、咸鏡二十七、合計四百二十九件なり

●在韓赤十字員の光榮　我が至仁至慈なる皇后陛下には去る四月東京日比谷公園に擧行せる赤十字社第十七回總會に行啓遊ばされたるが其際陛下の御令旨中

客蔵は韓國に於て社員總會を開きたる趣追々斯業の發展するは滿足の至りなり

との御沙汰ありたるが在韓日韓社員は無上の光榮を荷ひたるものといふべく自今戮心協力社業の發展に努め以て聖澤優渥なる聖恩の万分一をも報ひ奉らむことを期せざる可らず

●生徒の同盟休校　京城市內李鳳來氏の監理せる私立鳳鳴學校にては過日韓國觀光團の入京に際し他の諸學校と共に停車場に赴き歡迎せんとしたるに高等部の生徒一同は何時の間にか姿を隱したるより教師は何故歡迎に赴かざるやを詰問したるに生徒等は汝等の如き不甲斐なき教師の教授を授けずと憤慨し直ちに同盟休校せしが目下校長及生徒間に交渉中

●京城辯護士會則制定　京城に於ける辯護士は目下約二十餘名の多數に上りたれば理事廳にありてもかねてよりこれが取締上の必要あり過般三浦理事官は市內辯護士を招きて協議する處ありしが其結果京城辯護士會組織せられ同時に會則を制定し廿六條の本則と附則三ヶ條よりなる草案十一日理事廳を經統監府に申請すと

●新貨散布の狀況　新補助貨は舊白銅貨の回收及葉錢整理の進行に伴ひ當局者も極力之れが普及に努め各銀行及金融組合に無利子を以て之が散布資金を交付し又信用ある商人又は會社にして米穀買出の爲め新貨を使用する者には低利を以て之を融通せしむる等新貨散布に努め居れるも舊白銅貨及葉錢回收額の割合に其流通額を增加せず從つて散布すれば從つて收し市場に滯留せず現に新補助貨の流通額は四百廿六萬八千余圓に過ぎざる由

本日の集會

▲京城基督敎會　日の出町の同敎會にては午前九時より日曜學校同十時より禮拜說敎午後八時より傳道說敎あり尙は午前の分は米澤牧師の「平凡の高調」午後の分は同牧師の「家庭の宗敎」なり

▲京城日本基督敎會　旭町四丁目の同敎會にては午前八時半より日曜學校同十時より禮拜說敎午後八時より傳道說敎あり

▲メソヂスト敎會　旭町三丁目の同敎會にては午前九時より日曜學校終つて木原牧師の禮拜說敎夜は傳道說敎あり

公人私人

▲藤掛貞一（釜山金融組合理事）十一日歸釜
▲阪東安一（共同漁船重役）同日安東縣へ
▲田上龍雄（憲兵隊附中尉）同日入京浦尾へ
▲浦角斌（京城區裁判所檢事）同日入京浦尾へ
▲山口叶（農商工部技師）十三日大邱へ赴任

近事片々

▲會議　子曰く統監更迭の延引とは何の事だか判らぬ未だ伊公は辭表さへ出さず云々
▲我輩　にも未だ御內命なし親任式があつて始て判ると担ねくる其言草はたつなもの
▲國民　新聞の東京便りには辭表延引は伊公在任中に成財政問題を片付る爲也とある
▲曾禰　子統監として來任の上は第一着に地方政治の改善に手を下さんと是れ好著眼
▲地方　政治の改善には勢ひ中央機關に人改善を加ふるの要あらんと然り是至當の順序
▲果し　て曾禰子自身にして茲に着眼するとせば聊顧母し京城の春の眺めよりれつゝある
▲近頃　の如く地方官吏の會同頻繁にして大臣次官局長の訓示續發には皆大弱り也と
▲趙農　相の如き李學相の如き任度相の如き皆室々と訓示演說をなす天晴れの大策也
▲李容　九歸來何事をなせるか一進會員は彼の歡迎會を催せりと茲暫く一進會も靜寂
▲一進　會顧問內良曰く一進會と曾禰子との間は圓滿ならむ世評の如くならずと囁く
▲綠縫　若し困難ならば一電の下に宋と倶に辭すべしと例に依り豪傑振て體面なし
▲此頃　韓入閣に李容九洪肯燮等入閣すべしと唱す是容九自身より出た法螺でないか
▲根澤　鳳來允植等の一派頻に對新統監策を講じつゝありと重顯夏榮等も亦奔走すと
▲新領　土樺太は今尙ほ暗黒官憲の橫暴甚しと何處も同じ官憲の跋扈には實に閉口す
▲木　內務次官歡迎席上漁民の多數が平岡長官に對する不平を鳴らす爲に官憲赫怒
▲前田　事務官無暇の漁民に向て警官憲兵に拔劍發砲以て突擊せしめたりと亂暴極る
▲平岡　長官により改善せられしと思ひし樺太は今尙暗黒現角離民地官吏は腐れ易し
▲財政　難は何處も同じ佛國此病に罹る英佛獨の富强國にて然り況や日本に於てをや
▲軍備　競爭の絶へざる限り此病は癒へず然れども物窮れば通ず列國早晚非を悟らむ
▲昨日　の本紙三面にある司法官の面汚しは眞に困つた奴斯る法官あらば斷然難く可

▲宮殿下招待會 十一日加

英大使は榮本宮殿下の招待會を開き總理大臣以下多數參列せらる

●農林講習所授業開始 平壤農林講習所は十日午前十時より授業開始式を擧行せし新に着任せし安永專任講師の挨拶あり十一時閉會せりと

倫敦電報（東京經由）

▲米國の投資 米國は…に清國に向て投資せんことを希望し居れりと（以上十二日發）

…が李觀察使、花井技師、申之澤道主事等の來會ありて頗る盛會なりき李觀察使は起て一場の訓諭演說をなし續て花井技師は授業方針及び生徒心得等に就き講話あり次に今回…

●平壤電燈會社設立 平壤に於ける電燈會社設立の計畫中なりし松尾重信、板倉益太郎、松尾六郎等の他數氏の主唱にて愈々近日中に其の發起人會を開くに決し小城鐵道所長其他官廳の重なる人々之に聲援を與ふる由なるが平壤に電燈事業の起るを見るも遠からざる事なるべし而して其の電燈事業の動力としては石炭の火力を應用し會社は資本金十四五万圓の株式組織とすべしと

●新喜劇 看守の女房

▲井戸端會議の事實談

舞臺はすべて京城西小門通り共同井戸場附近の造作、遠く佛蘭西教會の鐘にて幕が明くと、其處には淫賣婦お讀れ鍋れ鑑など云ふ連中が會議の體「ちよいと、それは爾うとあの七兵衞さん達は何處へ引越したんだろふね」「七兵衞さんて誰れだよ」「例の夫れ監獄の……」「ア、解つた、田川さんの事かへ」「爾うだよ、何でも此の井戸端附近だてことを聞いたがね。」「れ前さん夫を聞いて奈何するの。」「どうて事もないけれど、一寸思ひ出したからさ。」「まあれ安くなろわね、道理で、妾、何だか此頃はれ前さんの素振が可怪いと思つてゐたのよ。」「ホヽヽまあ、眞實か知ら、れ竹さんも隨分物好きだわね。」「何を云ふのだね、馬鹿馬鹿しい、眞逆れ前さん達ぢやあるまいし、憚りさまながら、田川さんてあんな醜男に惚れなくても、このれ竹さんには、ちやん〜と加藤と云ふ旦那樣が付いてゐらつしやるんですよ、濟みませんね。」「よいしよ」「ホヽヽ」「ホヽヽ」と一同笑ふ、「夫れと爾うと彼の人も隨分酷い人だつてね。」「何れ樂み、れ竹さん昨夜そんな夢でも見たの」でも妾の家ばかりでも四十圓近く飮倒してゐるのよ。」「それで何と云ふぢやないかね、江戸樓とか云ふ家へは五十圓近の金を高利で以て貸し付けてると云ふぢやないか。」「まあ……呆れた、そして何かね未だれ妻さんはゐないんかね。」「居るともれ前さん、それこそ評判のれかみさんなんだよ。」「爾う、そんなに別嬪なの。」「ホヽ汚れ際の知れない別嬪さね。」「汚れ際の知れないと云へば。」「あんまり色が黒くつてさ。」「ホヽ、それで評判(か)。」「なあに色が黒いばかしだつたら這麼大評判になる譯はないんだけれどね、色が黒くて、顏がたぼで、夫れで以つてハイカラのれめかしやで、加之に御亭主の知らぬ內職をやるつてことで大評判なんだよ。」「まあ爾うかね、そして內職ッて男でも引込むんだね。」「あゝあ、それこそ妾達でも適はないやうな藝當をするんだつてさ……何でもそれに懸つてシコタマ絞り上られた奴が日本人に三名と朝鮮人に四五名はあるつて事だがね、男さへ見たら附き纏つて歩るいて逃がさないて云ふんだから、呆れるぢやないかね。」「眞實にねえ。」と一同感心の體、やがて分別顏の一人が「そして其のれかみさんの名前は何と云ふの。」「名前かね。」「あゝ。」「名前はれキヨとか何とか云ふのよ。」「

て行くやうな事があつたら、其の時こそ妾は言つてやるわ。」「何と言ふの。」「何と言ふのつて知れた事ぢやないかね、監獄のれ役人さんのれかみさんでさへ淫賣をしてるんだのに妾等ばかり娼賣をしたからつて拘留される譯はないぢやないかね、ねえ妾爾う思ふわ。」「ヒャ〜〜」（幕）

紳士の遊興振

▲岡喜七郎君

由來赤門出の人にして事務官らしき人は多きも政治家らしき人に至つては極めて少ない然るに君は同門出にては稀に見る政治家風の人である、且て紐育ヘラルドの通信員オール氏は統監府の各參與官中政治家らしきは岡君一人のみだと云つたそうだが誠に適切な批評である、君は曩に地方の各縣に知事として在任中地方政黨の操縱に依て大に政治的手腕の經驗を重ねたのである、君が曾て東北の某縣に知事たりし頃盛る共進會の開會式に臨み滯留數日式場入口に設けたるアーチは赤く色を變じた頃歸途に着いたそうである、而かも土地の人民は此の豪傑風の遣り口に膽を拔かれ大に威服したと云ふ事である、韓國に來任の當時は警務總長と云ふ八ケ間敷き役目を承はりし爲め大分內地とは趣きを替へて居たが、併し遊び振に於てはドゥヤラ內地に居る時の僻を留めて居た其れが內部次官に轉じて以來總長時代よりは大分呑氣に見ゆると同時に樓上に現はるゝ事も數繁く酒も呑めば藝妓も揚げる而して其得意とせる藝當は端唄、都々逸、勸進帳等で時々義太夫も語る、併し君の唄は何れも蕊式で聞くものをして義太夫やら都々逸やら長唄やら區別に苦ましむる位だが其取るべき處は歌に一種の覇氣を有する事である、君に對する藝妓、仲居の評を聞くに『岡さんは誰と一座しても敵客に滿足を與へる事に務める人である誠に感心な事だ……』是れも畢竟君が樓上の人となつても政治家たる心得を失はない勢であらふ、序に君は武骨なる風貌に係はらず時に大に藝妓から惚れ込まれるそうだが是れも所謂政治的手腕の然らしむる處か否か……

次は淺野長七君

●誘拐して處分に窮む

▲上海から仁川に突戻す

仁川本町一丁目花屋旅館に宿泊せる熊本縣天草郡生れの堀田義實（四十）及び妻かづと云ふ兩人の態度が怪しき節多きより仁川署刑事が取調べに着手したる所案の條婦女を誘拐し來れるものなること判明したれば一昨日檢事局に送りたるが其の道行を聞くに堀田義實とは眞赤な僞りにて吉田康喜（三十）と云ふものにて九州方面を股に掛けて婦女誘拐を業とせる曲者なるが去る四月頃熊本に於て清正公の三百年祭のありし當時康喜は同市に出掛け集まり來たる田舍娘をものにせんとしたるも思はしき鳥のなき儘福岡縣八幡に來り某下宿屋に宿りたる時給仕に出でたる同縣築城郡八屋村後小路かつ（三十）と云ふが一寸澁皮の剝けた顏なるより康喜は忽ちものにせんと野心を起しれ前此家で月給十圓はとる料理屋に入いれば月二十圓にはなる話があるものか支那芝罘に行けば下女でも幾何程貰ふかナニ一圓五十錢其麼馬鹿な乾度なると口から出任かせの大法螺を吹きたれば田舍者のたかつはツイ康喜の口車に乘せられ五月二十三日大有丸にて門司を出發し二十六日仁川に着し翌日共同丸にて芝罘に向ひ豫ねて喋し合はせる愛國亭と云ふに至りたるが同亭は斯がる誘拐の世話をなす爲め過日其筋より退去命令を受け何れにか去りたる後なりければ康喜も途方に暮れ何んとかしてれかつを上海方面にて賣り飛ばさんとしたるも同地官憲の取締嚴重なる爲め遂に其の目的を達せず康喜はれかつを連れて去る八日再び仁川に舞ひもどりたる前記花屋に夫婦の名前で投宿し花開洞邊に賣り飛ばさんとて奔走せる折柄取り押へられたるものなりと

●夫に毒を盛る 仁川署管內永宗島居の韓女某は其の夫を殺害せんとて毒藥を盛りたるが其の事端なくも家人に發見せられ右某女は一昨日縊死を遂げたりとの通報に接し仁川署員一名は直に同島に出張取調べに着手したり

●壽座の活動寫眞 昨日より當地壽座に於て毎夜開會せる東京麴町區三番町六三エムパテー商會特派活動大寫眞會は今回初めて渡韓なし過日來より釜山座に於て毎夜非常なる好人氣を博したる由因に同商會は日本に於ける斯業界の覇王にして佛國のパテー會社アーバン會社ゴヲモン會社米國バイトグラフ會社及び佛國の新會社テーチエバゼ等の日本に於ける唯一の特約直輸入店なれば舶來フキルム器械類の輸入販賣の大なるは云ふまでも無き所なるが昨年度よりはエムパテー商會に於て撮映部編輯部意匠部興行部の各課を設け日本劇の撮映器械類附屬一切の製造販賣を開始し今や事業日に月に進み行くの盛況を呈し今や地方出張隊十五組にして東京市內のみにて十三個所を有し地方常設館亦二十個所毎月の輸入高約五萬圓を下らずと云ふ

●意氣地無し男 岡山縣備中國吉備郡大井村字大井草井勝之助（三十）は去る三十六年渡韓し本町二丁目二十一番戶へ居住し夜泣き溫飩屋を業とせるものなるが一昨年三月頃車夫須田某の媒介により女按摩諸富ツギ（四十）を內緣の妻となし同人の所得に依り本人は炊事をなして一家の手助けを爲し恰かも男妾けの樣な有樣なるが此程鄕里の父直藏より赤貧糊口に窮する故速かに歸國するか或は送金するか相當說諭ありたき旨南部署へ願出しも本人は斯の始末にて女房のツギは一文も融通し吳れず大に閉口の體なりとはテモ意氣地の無い男かな

●清韓人の鬪爭 本町一丁目居住清國人衞生會人夫慶玄心（三十）は一昨日午後四時二十分頃若草町二丁目韓人酒商李相玉方に至り金三十錢分の酒を買はんとしたるに言語不通の爲め互に爭を生じ清國人は數名一團をなし韓人は附近のもの數名相集りて互に味方を救け合ひ石を投げ棒を振り大混雜を極め居るを南部署の淵上巡査が目擊し双方を取鎭めたるが此時既に李相玉は前記慶玄心の携ふる棒にて前頭部より後頭部に掛け半月形の創傷を受け居ければ同巡査は慶を引致して清國領事館警察に引渡したり

「六日目取組」

取	組
鬼龍山	氷見濱
瀧の音	山泉
黑瀨川	小柳
司天龍	高見山
立川	大綠
鶴渡	兩國
稻瀨川	尼ケ崎
伊勢濱	朝嵐
綠島	駒ケ嶽
有明	常陸山
錦戶	男島
梅の花	小常陸
有村	神崎
鏡川	紫雲龍
上汐	大湊
玉椿	千年川
鳳	浪の音
國見山	大の川
太刀山	西の海
梅ケ谷	碇潟

●軒燈を打破る 明治町三丁目光進社山野牛松方川內逸三郎（七十）は一昨日午後十一時五十分本町一丁目裏通り韓人町カルボ屋李鐘西方の軒燈に石を投じて破壞したる儘遁走したるを數名の韓人追跡中南大門通三丁目裏通りへ逃げ込みたるを根本巡査が認め直ちに南部署へ引致して翌朝迄留置きて眼玉の上放還

●二刑事に賞與 南部署の長野、工藤兩刑事は曩に詐欺取財缺席六年の判決を受けたる石田米藏外窃盜二名の罪狀を檢擧し逮捕したる功により昨日警視廳より賞與さる

●共樂園の開業 本町二丁目本町座跡に開業せしビヤホール共樂園は京城の地には珍らしく營業柄季節向きの設備として遺憾なし苑園廣濶にして幽雅樹木の植ゐ付庵屋の構造等見るからに數寄を凝らし顧客をして自ら身心を爽快ならしむ若し夫れ薄暮杖を曳いて同園に到りマツ一盞のビールに渴を醫し園內の風致に對せんか凉味自ら肌を襲ひ陶然として羽化登仙の思ひあるべしソレに第一價格の低廉なるが同園の特色にして冷ビール二十七錢洋食一皿十錢とは思ひ切つた勉强の仕方なり

●東京大相撲勝負附 國技館の大相撲五日目勝負及び六日目の重なる取組は左の如し

「五日目勝負」

勝	負
藤見嶽	神崎
梅の花	小柳
司天龍	千年川
鳳	小常陸
山泉	鶴渡
駒ケ嶽（分）	國見山
中入後	
平の石	利根川
稻瀨川	氷見濱
大湊	錦戶
玉椿	浪の音
梅ケ谷	朝嵐
瀧の音	紫雲龍
高見山	立川
黑瀨川	尼ケ崎
鏡川	碇潟
西の海	綠島
常陸山	上汐
八島山	男島
有村	鬼龍山
大綠	伊勢濱
太刀山	兩國

▲私は過日も一寸本欄を借りて當局者に注意を促した事のあるものですが京城市中目貫の場所を淸國總領事廳に尨大なる地區を占領せらるゝと云ふことは迷惑であるから他に適當な閑靜な地をトして換へ地したら宜しからう都合に依れば軍司令官々舍を以て之れに充て司令官々舍は他に建設すると云ふのが一番上等だと思ふ以て奈何となす（天狗）▲私は廿七で判任官三等で居るが妻が欲しいが一つれ世話を願ひたい（ケー、エム）▲れ世話致しますが一遍れ目に掛つた上（小僧）▲小僧媒介迄引き受ける物好きな奴だ（係）▲統監府へれ願ひします、一つれ催しなさつて其の餘興に東京大相撲を連れて來て其の保護の下に安く見られる樣に爲て下さらんか（角力狂）▲流力角力狂程あつて甘いことを考へたね拙者も贊成するね（給仕）▲川田巡査の妻君が云々との記事を見たが川田巡査の妻君は決して其樣な不貞な人でない況して子供迄も在る身だものれに東京樓とかへ高利五十圓を貸して居るなどとは以ての外の作り言だ先づ自身の頭の蠅を追ふて他人の內事へ立ち入れ然うでないと飛んでもない見當違ひが出來るぞ（本町五丁目生）▲鐵道官舍第〇號の女中さんよ少し品行を愼まないと美しいれ聟さんが貰へませんよ（世話燒）▲京城の湯屋は男の脫衣場から女の脫衣場が見通ほせる樣になつて居るが彼れを喜ぶ人もあるか知れないが僕等は迷惑だ淫賣婦でも多く入つて居る時なぞは尚更だ自慢相に此れ見ろと斗り突き出して居るんだもの（坊ちやん）▲此の頃の樣に不景氣ぢや屁も放れられぬモウ少し何うにか成そうなものだナー（小商人）▲神とか佛とかは寺の內陣や敎會の聖壇にのみ見ろとを得るのみで活動せる佛だの神だのは何處に求めたらば得らるゝだらうかしら（迷羊）▲堂上に二佛あり之れを父母と云ふ（小僧禪師）

●天氣豫報（自十二日午後六時 至十三日午後六時）

北東の風曇

十一日 最高溫度 七八、四 最低溫度 三四、三（華氏）

各種洗濯石鹸
專門製造販賣
用途 陸軍、鐵道、船舶、鐵工、鑛山、水道、諸工業用
京城旭町一丁目
(電話九七三番)
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●開校 私立裁縫徒弟學校開始す希望者は至急申込あれ規則書入用の向は郵券二錢送付す 龍山本町三の六六 吉村又平治

●賣子募集 廿歲以上の男子六名入用 旭町一の六〇 旭町讀賣所(二八〇)

●被雇度 年廿五永年大坂にて商業に從事す店飾りの心得あり給料不望確實保證人あり 龍山漢江通四 巴商行内

知人年廿六多年會社に從事せり中等敎育あり且カード式簿記學卒業京龍間の會社又は商店に雇はれたし 度支部官舍内 橋本

物件部

●電話讓受たし 本町民團役所前 佐々木

●砂金鑛讓物あり 本町民團役所前 佐々木

●貸家 京畿道利川郡利川に諸營業に適當の家屋あり地所共に金二百圓にて賣却す 京城三角町三 山内(二八二)

廣告

神經腦病頭痛
金鵄最良藥
島村 ... 腦丸
丹平商會

醫學博士島村先生 有効証明
いかなるはいたでも いまなそるはぐすり
藥價 小瓶七錢 中瓶十五錢 大瓶三十錢
元祖 大阪心斎橋 丹平商會本店
本舗 京城 丹平商會支店
全國各藥店ニ取次販賣す

解雇廣告
小原条一
右之者今般都合有之解雇致候に付自今一切弊店に關係無之候間此段廣告候也
六月十日
南大門通
井上看板部

東洋總代理店
實用石鹸
アイボリー
藤原京城支店
電話 壹壹八 壹〇九 四四 番

移轉廣告
今般業務擴張の爲め左記の處へ移轉す
南大門外御成町紅葉館跡
(茂呂運送店前)
開通
戸田病院
電話九三八番

瑞西タバン時計會社韓國代理販賣店
米國ウオルサム時計
米國ヂンソニヤ時計
明治時計
製造會社
掛置時計 韓國特約販賣店
時計 韓國代理販賣
時計自轉車御部 仁川本町三丁目 喜多金光堂本店
時計小賣部 京城本町二丁目 喜多金光堂支店 電話架設中

寫眞養成所新設
志望者ハ六月三十日迄ニ申込アレ
郵券封入アレバ規則書進呈ス
龍山元町三丁目 電話參武番
芦谷審美館

訂正増補 第六版特價即賣廣告
大日本人名辭書
大本全一冊(紙數二千七百五十頁) 定價金拾五圓
六月三十日限り ◉特別割引金九圓
但東京市外は小包郵便料四十八錢 臺灣、清、韓、樺太七十錢を要す
本版は八員に於て四千三百餘名を增補し隨て諸系譜並に和漢洋年表を改正したれば前版に比し一層本書の面目を新にせり、乞ふ此好機を逸せず速に御注文あらんこと を、御送金の上は直ちに發送致すべく候
明治四十二年六月
東京京橋區 御門町七番地
電話新橋 八十七番
振替東京 二一二九番
合名會社 經濟雜誌社

●開業御披露●
會席御料理並仕出し
會席御一人前金五十錢
(但御酒二本附)
其他御客樣の御好に應じ調品仕候
尚來る十五日より開店御披露として向三日間二割引券を呈す
六月
北米倉町(宮田質店隣)
岡乃家
(電話架設中)

元祖 消毒殺菌
牛乳 千山牧場
京城大和町壹丁目
電話一三三

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ(紹介ヲ要セス)
京城旭町二丁目六十七番戸
辯護士 岡田榮
(電話三九八番)

眼科專門
京城本町一丁目參十四番戸
元蘇井跡 (電話三十三番)
醫學得業士 前漢城病院眼科部長 江頭富雄
江頭眼科醫院

待合 ...

▲清潔の下宿▼
客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
▲懇切の下宿▼
本町二丁目十番戸 横小路(花屋跡)
かめ屋

軸物表裝
金銀屏風
額面榠一式
壁張天井張
明治町二丁目 文番 古香堂

工場新築落成ニ付當分ノ間二割引
大勉強
改良御料理
御一人前
金五十錢均一
御酒二本
御肴三品
西小門通り
東京樓

名聲銀牌受領
キリンビール

開業御披露
會席御料理並仕出し
今般左記の處に於て料理店開業致し候に付大々的勉強仕り候間何卒御贔負の程偏に奉希上候
六月
旭町一丁目(小森材木店前)
大福樓

營業科目
活版活字鑄造
石版銅版
木版彫刻
コロタイプ版
寫眞版
諸帳簿
製本裝訂
今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築營業致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也
日韓印刷株式會社
本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

軍旅必携
大日本守田寶丹
MORITA'S HÔTAN.
起死回生 寶丹
官許本家 東京池之端仲町 貳拾七番地 守田治兵衛
明治十年從警視廳豫軍用之命也
MORITA JIMBEI.
寶丹一貫
代理店
京城南大門通三丁目 (電話九百四十六番)(千八番) 新井藥房本店
京城本町三丁目 (電話四七八番) 新井藥房第一分店
京城南大門外 新井藥房第二分店

內外科、眼科
花柳病科
(入院隨意)
本町六丁目五十番戸
瀧澤醫院
(電話七二一番)

特約販賣自製
漬物
味噌
醬油 製造元
大上商店
京城本町五丁目
利洋酒、の精酎、穀物麵類銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛各種特約販賣
尚御望に依り商品切手調進仕候
(電話二五一番)

明治廿年七月創立
東京火災海上運送保險株式會社
資本金一千萬圓
京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九
事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

鴨綠江特種木材九州セメント取次販賣
末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材
建築業 柴田芝之六
京城旭町三丁目
電話五六八番

京城曙町(電話二八七番)
統監府御用
宮內府御用
軸物表裝
金銀屏風
額面榠壹式
壁張天井張
石川表具店

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬
本店 京城本町三丁目(電話四〇番)
出張所 同南大門驛構內(電話七三二番)
伊藤組

◉氣候變化=牛乳
◉牛乳=純良=消毒
韓國畜産株式會社
南大門外(電話八八番)

日本郵船株式會社
汽船出帆廣告
仁川濱町 貨物及船客取扱店
郡回漕店
電話三九番

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●大阪、太沽、牛莊行 ... 丸 七月 四日午後三時
●大連、太沽、牛莊行 ... 丸 七月 一日正午
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 六月二十二日前五時
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 立神丸 六月十六日午後
酒田丸 六月十七日正午

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金三十五錢 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月分
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢 ▲四號活字十九字詰一行 六十錢
發行兼編輯人 秋山三郎
印刷人 高木久馬
發行所 京城西小門通 京城新報社
電話六六三番